



地域に根ざした 定時制高校

都立三田高等学校長 岡本 裕之

都教育委員会は九月に、都立高校改革推進計画を発表しました。この中に、定時制課程の規模と配置の適性を計画し、十九校程度を統合対象校とし、新たに、単位制高校(昼間定時制)など六校を設置し、差引十三校程度を減らす予定である。私は三田高定時制の現状について都教委への説明で、

生徒の出席率はよく、問題行動は少なく、明るく生き生きと登校する生徒が多い。中学校で不登校であっても本校では一日も休まず登校している生徒が何人もいることを説明した。

この他、強調した点は、P.T.A活動と同窓会活動が活発で、本校の教育活動と密接に結びついていること

を話した。本年度もP.T.A総会で、青葉会副会長、川上忠重氏に講演をいただき、保護者、生徒、教職員が共に深い感銘を受けた。「文明の発展とリスク」の演題で、現在の豊かさの背景にある様々なリスクの例をあげ、パランスの保つことの大切さを話された。同時に「心のバ

受賞者
平成八年度
「北原奨励賞」受賞者
神部裕里奈
宮田奈留美

母校の近況

平成八年度卒業式
三月三日
卒業生16名(男12女4)
平成九年度入学式
四月九日
新入生14名(男8女6)

母校職員の異動

◇一転出
小林昭次先生(事務)
品川区立城南小へ
◇二着任
浅沼真紀先生(事務)
都立目黒高より



定通教育の 新たな一歩を

教頭 中野 英雄

今年のは定通教育五十年の節目の年で、八月には全国の記念大会・式典が東京で行われ、十一月には都の記念式典が行われます。

つても学べる・④自分の望む教科・科目が選択できる・⑤普卒入生のようにもう一度学べる・⑥卒業証書は必ずしもいらぬ、新しい知識、技術、教養が得られる、といった特色を持つことが求められ、そのために

に富んだ展望が示されています。さて、奇しくもこの記念すべき節目の年に、都立高校は少子化による生徒減に対応した大改革が始まります。二〇一〇年までに六六

新しいタイプのひとつとして先程挙げた定通教育の課題に応じた単位制の高間定時制を「チャレンジスクール」として開校する計画が具体化されます。何とも皮肉なことですが、

と、この頃からすでに現在と同じ課題をあげていることに驚かされました。

とが求められ、そのために併修・連携・二部制・三部制・昼間定時制・二修制などが考えられるなど、示唆

校を統合・改編し、「新しいタイプの学校」など三七校を設置し、二九校を削減するということです。この

ともあれ、生徒の適性を生かし、定通教育の振興につながることを信じて努力していくことにつきると思



います。

新入会員 紹介

平成9年3月卒業

おめでとう ございます

- 大久保陽介
- 大熊崇之
- 田邊裕一
- 辻村 忠
- 畑山 範行
- 町田 聡
- 三階 香也
- 三宅 則之
- 渡邊 良範
- 神部裕里奈
- 佐藤 祐子
- 田中英恵
- 宮田奈留美
- 金子 貴俊
- 安藤 俊也
- 佐々木隆二

○印は幹事です。

青葉会 役員

1997年度

| | | |
|-------|--------|------|
| 役職 | 氏名 | 卒業年度 |
| 名誉会長 | 岡本 裕之 | |
| (学校長) | | |
| 名誉副会長 | | |
| (教頭) | 中野 英雄 | |
| 顧問 | 石関力太郎 | |
| | 中村 十成 | |
| | 杉山 邦衛 | |
| | 若林 明弘 | |
| | 三浦 一康 | |
| | 中村 幸子 | |
| | 五百川 武 | |
| 会長 | 川上 忠重 | |
| 副会長 | 吉川 貞雄 | |
| | 若月 義勇 | |
| | 中村 信夫 | |
| | 嶋田 孝雄 | |
| 総務 | 山口 豊美 | |
| (副) | 小川 利江 | |
| 監査 | 高川 孝崇 | |
| 常任幹事 | 石田 弘 | |
| | 山内 和代 | |
| | 竹内 務 | |
| | 神崎 敦子 | |
| | 江沢 照美 | |
| | 須藤 祐二郎 | |
| | 八木 敏行 | |
| | 河野 節子 | |
| | 皆川 茂 | |
| | 柳沼 健一 | |
| | 鈴木 治枝 | |
| | 阿久津真次 | |
| | 斎藤 新二 | |
| | 有坂 律子 | |
| | 平田 福正 | |
| | 椎 昭雄 | |
| | 元井 美和 | |
| | 和田 博道 | |

H6 H3 50 49 45 45 42 42 41 41 41 39 39 29 29 28 28 29 34 33 39 39 41 45 38 30 30 41 19